

本巣市立根尾学園(岐阜県本巣市)

目的に応じて、「同学年」「初・中・高等部」「全学年」と、柔軟に多様な集団を編成
異なる学年同士が対等な立場で接し、互いに感化、成長していく姿を目指す

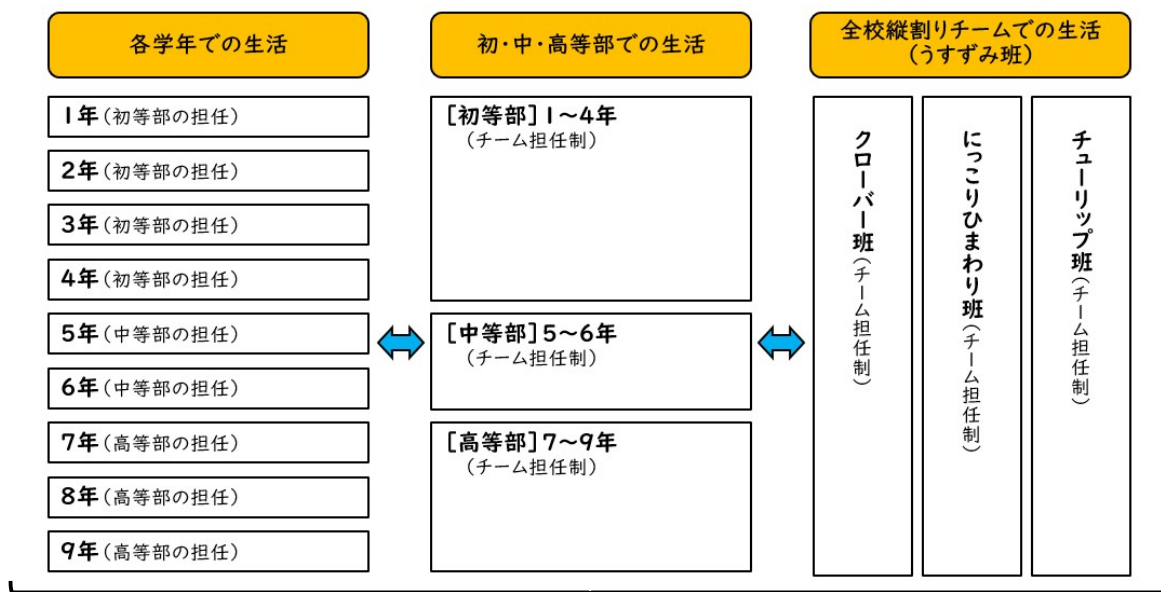
- 少人数でも人間関係の流動化を確保するため、異学年集団による柔軟な集団編成を導入
- 認め合い、学び合い、支え合う異学年交流が、実社会で生きる社会性、協調性を育む

根尾学園は、本巣市の北部・根尾地域に位置する、令和4年度開校の義務教育学校です。令和7年4月現在、1年生から9年生までの児童生徒37名が、共に学校生活を送っています。地域の子どもたちの人数が年々少なくなる中、同学年の子どもたちで集団活動を行うことが難しくなり、人間関係も固定化されがちに。そこで、異学年集団による活動を積極的に導入し、多様な人との関わりの中で、認め合い、学び合い、支え合う経験を通じて、これからの社会を生きる力を育んでいます。

「縦(異学年)」や「横(同学年)」にとらわれない柔軟な集団編成

根尾学園では、子どもたちが柔軟に関わり合い、のびのびと活動できる集団づくりを目指し、活動の目的に応じて「縦(異学年)」と「横(同学年)」、それぞれの良さを生かした3種類の集団をつくっています。人数が少ない中、人間関係の流動化を図る上でとても効果的で、子どもたちは決められた役割や立場に縛られることなく、自分らしさを大切にしながら、学校生活を過ごします。

※3種類のグループのイメージ図



目的に応じて柔軟に離合集散を行いながら活動の充実を図る

学年別グループ (一部複式学級あり)	学年帯による縦割りグループ (1~4年、5~6年、7~9年)	全校縦割りグループ【うすずみ班】 (1~9年)
一般的な同学年集団です。教科の授業はこのグループで行います。	朝の会や帰りの会、係活動、掃除、給食など、根尾学園における普段の生活は、このグループが中心となります。	遠足や体育的行事、特別活動など、学校全体を上げた活動はこのグループで行います。

どきどき・わくわくの「クラス替え」

一学年の児童生徒は数名で、クラス替えがないほど小さくても、全校縦割りのグループになれば集団も大きくなる。根尾学園では毎年4月、3つの全校縦割りグループ「うすずみ班」が発表され、これが「クラス替え」となります。

今年は何の子と同じ班になるのか、子どもたちは心はどきどき、わくわく。うすずみ班が発表されると、班開きを行い活動をスタート。さっそくグループで班の名前を考え、令和7年度は「クローバー」「にっこりひまわり」「チューリップ」の3つに。子どもたちの誰もが親しめるものになりました。

「縦」のつながりをさらに深める「うすずみウィーク」

7月16日、この日は「うすずみウィーク」の活動日。うすずみウィークとは、1週間、朝の会や中休み、給食に掃除など、各教科の授業以外の時間を全て「うすずみ班」で過ごそうというものです。

朝の会、「にっこりひまわり班」では、9年生の司会のもと、健康観察や教室環境のチェックを終えると、なんでもバスケット（椅子取りゲーム）が始まりました。みんなが楽しめるようにルールを調整する姿、椅子取りのタイミングが一緒になった下級生に椅子を譲る上級生の姿。教室には思いやりやリーダーシップにあふれる姿がありました。



なんでもバスケットを楽しむ
「にっこりひまわり班」

縦割り活動、異学年交流が育む「認め合う」姿

根尾学園の子どもたちは「教える、世話をする」「教えられる、世話をされる」の関係だけではありません。異学年での対話を重ねるごとに、互いの存在を認め、仲間への思いやりと自己肯定感が育まれていきます。そこには、高学年の「寄り添い、共に活動する姿」が、低学年の「憧れをもって挑戦する姿」が見られ、互いに感化し合いながら成長します。



7～9年生で取り組む道德

【教員の声】

異学年集団を大切にしたい日々の活動の中で、子どもたちにはリーダーシップや人としての温かさが育っています。また、下級生が上級生を見て、その姿に憧れをもっており、追い付こうと頑張っているのが力の伸びも私たちの予想を超えています。

どの子どもたちも、学校内の様々な集団の中で、自ら考え、自分の役割を果たしています。そんな子どもたちにとって、私たち教職員は「学びのパートナー」です。決して教え込むのではなく、いつも子どもたちのそばにいて、気付きを与える存在でありたいと思っています。

【本巣市立根尾学園（義務教育学校）】 (<https://www.motosu-education.jp/neo-jhs>)

所在地：岐阜県本巣市根尾神所268番地1

児童生徒数：37名（2025年度）

下呂市立宮田小学校(岐阜県下呂市)

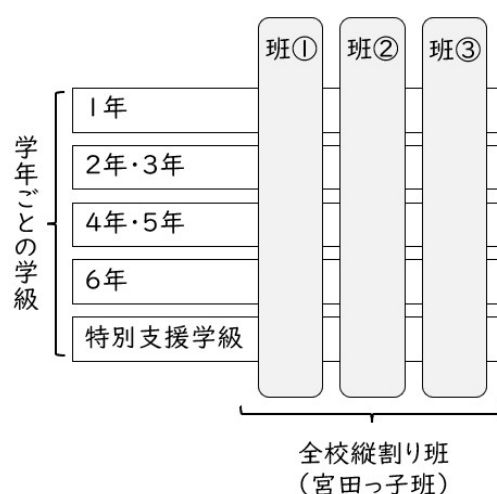
「縦」のつながりを生かし、明るい笑顔と学ぶ意欲のあふれる学校に

- 学校生活を送る基本的な集団として、全校縦割り班を編成。
- 学年ごとに行っていた総合的な学習の時間を、3～6年生の縦割りグループで実施。

下呂市立宮田小学校は、下呂市北部の萩原町にある、全校児童数40名（令和7年4月現在）の学校です。「地域の担い手として活躍して欲しい」「強い心と実践力を持ってほしい」「様々な人と関わり合って成し遂げていく力を身に付けてほしい」など、地域や保護者、教職員の子どもたちに対する思いを大切に、「縦」のつながり、異学年集団の良さを生かした教育活動を展開しています。

異学年集団を学校生活のベースに

朝、登校して各学年の教室のロッカーにかばんを収めると、全校縦割りの班「宮田っ子班」の教室に移動して朝活動・朝の会を行う。これは宮田小学校における日常的な様子です。1学年の児童数が数名程度の宮田小学校では、学年ごとの学級（特別支援学級とあわせて5学級）とは別に、全ての学年の児童が含まれるように、宮田っ子班を編成しています。朝の会・朝活動や給食、掃除と、子どもたちは毎日の学校生活を宮田っ子班中心に送っています。一方で、算数や国語などの授業は学年ごと。目的に応じて「異学年集団」「同学年集団」それぞれの良さを生かした学校運営をしています。



宮田小学校における学級や班編成。「学年ごとの学級」と「全校縦割り班」の双方を効果的に運用している。

加えて、5学級を3つの宮田っ子班に編成することで、例えば朝活動・朝の会では、2名の教員がこの時間の担任業務を外れ、その他の業務を進めることができることになります。校長先生は、こうした取組が教員の働き方改革にもつながっていると考えています。

小規模校の良さを生かした縦割り朝活動・朝の会

宮田小学校では、宮田っ子班による朝活動・朝の会を、令和7年1月から始めています。この取組の良さとして「多様な人と関わるができる」「高学年の力を発揮する場になる」「低・中学年は高学年の姿から学ぶことができる」「少人数の関係に縛られず、『自分の居場所』ができる」などが挙げられます。また、教員の立場としては、より多くの目で子どもたちを見て、子どもたちの良さや困りごとを共有し、支援していくことにつながります。

特徴的な朝活動に、学びたいことを自分で選んで学ぶ「チャレンジ朝学習」があります。週2回、朝の20分間を活用して、自ら設定した課題に向かい、異学年の子どもたちが教え合いながら解決していく。校舎には朝から主体的に共に学ぶ子どもたちの姿があります。

誰もが「ふるさとじまん大使」に 異学年の仲間と取り組む総合的な学習の時間

7月17日午後、多目的室に3年生から6年生までの子どもたちが集まっています。これから始まるのは、毎週木曜2時間連続で実施する総合的な学習の時間です。宮田小学校では「ふじがもりタイム」と呼んでいます。

導入は令和5年度。それまでは、各学年で決まった学習内容を同学年のみで探究していた総合的な学習の時間を、学びたい内容や方法を自ら決定し、共通のテーマで集まった異学年の子どもたちが関わり合いながら学ぶ「ふるさと学習」を柱とした探究活動に変えました。

「ふるさとじまん大使になろう」という全体目標のもと、子どもたち一人一人が考えた探究したいテーマを、教員が類似するテーマをグルーピングします。そうしてできた学年の異なる子どもたちが混じり合う、4つのテーマごとのグループで活動しています。

授業が始まると、それぞれ活動しやすい場所を選んで探究開始。お互い興味・関心のあることが共通しているので、学年の違いを感じさせない学び合いが自然と起こります。そして、探究に熱中。あっという間の2時間です。

活動の始めと終わりには、必ずグループごとで、今日はそれぞれ何をするか、何ができたか、次の時間は何をするかなどを交流することで、探究の視点はより深まっています。



活動後に意見交流をする、飛騨の食べ物についての「ふるさとじまん大使」を目指す子どもたち

「自ら考え判断し行動する力」の育成を目指して

予測困難なこれからの時代を生き抜いていくためには、自ら課題を見つける力や自ら考え、判断し行動する力、より良い社会や人生を切り拓いていく力が求められます。宮田小学校では、児童アンケートにおいて「異学年での学習は楽しい（まあまあ楽しいを含む）」と答える子どもたちが100%となり、全員が異学年での学びの良さを感じ取りながら学んでいることが分かりました。

学びの集団づくりの工夫などが、主体的に取り組む、仲間と共に学ぶ子どもたちの姿を着実に増やしています。

【教員の声】

「ふじがもりタイム」では、学年の異なる子どもたちが、学びたい場所でそれぞれ探究に取り組んでいます。そこで、私たち教員は、子どもたちの探究を支える上で、タブレットの学習支援ツールを活用しています。各教員はタブレットを持参。活動場所を巡回し、子どもたちの活動を見取る中で感じたことを、「付せん機能」を活用して即時に共有、教員同士がより良い支援・助言ができるよう心がけています。付せんには子どもたちの活動の様子が記録されるので、活動に対する適切な評価にもつながります。

【下呂市立宮田小学校】 (<https://www.gero-j.ed.jp/wp2/miyada-e/>)

所在地：岐阜県下呂市萩原町宮田1340番地

児童数：40名（2025年度）

岐阜市立藍川東中学校(岐阜県岐阜市)

「互いの違いを認め合い、みんなが幸せになる時間をつくる」がテーマ

異学年集団による学び合いあいどう「藍東ジョイントスクール」の実施

○月1回、1～3年生の異学年学級で、対話による合意形成を得ながら遊ぶ、学ぶ。

○異学年集団による教育活動で、これからの時代を生きていくソーシャルスキルを育む。

岐阜市立藍川東中学校は、岐阜市東部に位置する全校生徒146名(1学年2クラス)の学校です。当该校では、1～3年生の異学年グループで、遊びや対話、学びを通じて交流を図る「藍東ジョイントスクール」を、月1回、実施しています。

テーマは「互いの違いを認め合い、みんなが幸せになる時間を生徒がつくる」こと。そこには、「自律」「共生」「創造」を教育目標とする当该校において、「子どもたちには、現在、そして未来の社会で幸せに生きてほしい」という願いがあります。

多様な仲間との対話、そして合意形成の大切さを学ぶ

ジョイントスクールでは、3学年を縦割りにした6つのグループ(各学年10名×3=30名)を編成。教員は全員体制で、1グループに2～3人がつきます。

令和7年6月25日、本校初のジョイントスクールが実施されました。

まずは全員で輪になって自己紹介。「自分をお菓子で例えると…」と生徒一人一人が話していきます。少し緊張感が漂う中、ある3年生の生徒がユーモアたっぷりに話すと、一気に場が和み、1、2年生もしっかり自己紹介ができました。

この日の活動は、当该校の教員にとっても初めて。当日までに活動の主旨など共通認識を図っていますが、どのように生徒と関わればうまくいくのか不安はあったそうです。この自己紹介も、先頭を切って自己紹介をする教員もいれば、生徒の主体性に任せ、自己紹介が進むのを見守る教員もいます。みんな試行錯誤でした。

少し打ち解けたところで、1時間目「フリースタイルプロジェクト」(学級活動として位置付け)に入ります。これまでは、教員やリーダーが決めた活動をしていましたが、今回は全員が当事者となって対話し、活動を生み出す経験をします。1グループをさらに2～3班に分けて、約10人でスタート。すぐに活動が決まり、簡単な遊びをしている班もあれば、最後まで決まらなかった班も。しかし、教員はあえて指示を出しません。「できなかったことから学ぶことがある」という思いがあるからです。メンバー全員の納得を生む活動を考え、合意形成の上で、生徒自らが進めていくプロジェクトであることが実感できる大切な時間でした。

2時間目の哲学対話(道徳)は、異学年集団による学び合いの最も根幹の活動です。正解のない課題について、異学年の仲間との対話を通して、様々な見方で受け止めたり考えたりすることを目指します。「何を言ってもいい」「人の意見を否定しない」などのルールを共有してからスタート。



「哲学対話」の様子
異学年の生徒が一つの輪になり、語り合う

「幸せとは何か」について対話が始まりました。「動物と触れ合っている時間が幸せ」「友達と下校しながら話すのが好き」など、色々な「幸せ」が出てきます。「されて嫌なこと」についての意見も出ました。その度に、仲間の意見をじっと聞き、納得し、うなずく様子からは、学年という境目がなく、一人一人が大切な「個」として受け入れられていることが分かります。一人一人の幸せの感じ方は異なります。多様性を誰もが認識できる時間になりました。

異学年の学び合いが生む関係性、できる喜び

先日学んだ数学の一次方程式の解き方に悩んでいる1年生。その様子を見て、「この問題、懐かしいな」と言いながら1年生に説明し始める3年生。

3時間目は数学。予習するのか、復習するのか。学ぶ内容は事前に自分で決め、問題集やタブレットを持ち寄って取り組みます。この数学の学び合いの取組には、自律して学ぶ中で、分からないことを聞き合ったり、みんなで課題解決したりするねらいがあります。

教える上級生にとっては、下級生に教えることで復習、理解の定着につながります。

教えてもらう下級生にとっては、同級生に聞くのは少し恥じらいを感じる生徒でも、上級生になら安心して聞けます。上級生からは、初めて学んで難しかった時の経験から、下級生の気持ちを理解しながら教える優しさを感じられました。



上級生が下級生に尋ねて問題解決
黒板を使って教え合いの姿も

時間が進み、いよいよ学び合いの姿は教室全体に広がってきました。隣同士で問題の答えを確かめ合う姿や、上級生も下級生も関係なく、黒板を使ってお互いの解き方や考え方をぶつけ合う姿、個別に教員に尋ねる姿など、誰もが学びに向かっています。解くのに苦労した問題も、聞き合い、教え合う中で、理解できた瞬間には笑顔と達成感を味わう姿がありました。

【校長先生の声】

藍東ジョイントスクールは、子どもたちが「社会を創る経験」を積む場です。異学年の生徒同士が関わり合い、対話を通じて活動を生み出すことで、年齢や立場を越えた協働が自然に育まれます。教員にとってもどのような役割を果たすとよいのかを考える機会であり、授業改善の足掛かりになります。うまくいくことよりも、やってみて振り返ることが大切。全員が当事者となる学びを、これからも育てていきたいです。

【岐阜市立藍川東中学校】 (<https://gifu-city.schoolcms.net/aikawahigashi-j/>)

所在地:岐阜県岐阜市大洞紅葉が丘6丁目22-3

生徒数:146名(2025年度)

私立大日向小学校(長野県佐久穂町)

「大人が教える場」から「子どもが育つ場」へ

日本初のイエナプランスクール※1として、子ども主体の学校を目指す

- 異学年集団の学級をベースに学校生活を過ごす。
- 現実社会と同様に、学年が異なる集団の中で過ごすことで、自分自身の個性や、他者との協力の仕方を学んでいく。

(※1)「イエナプランスクール」とは、ドイツで生まれ、オランダで広まった、異学年の子どもたちが同じグループで学び合う教育方法である「イエナプラン教育」の理念に則り、異学年学級を採用するなどの基準を満たした、日本イエナプラン協会による認定校のことです。

大日向小学校は、長野県東部の山あい、人口約1万人の佐久穂町にある、開校して7年目の私立校です。2019年の開校当初、全校児童70名からスタートしましたが、今では約200名が集うまでになりました。

全国から「のびのびと子育てができる」「ありのままを受け入れる」という教育を求めて人が集まり、今では児童の9割が県外からの移住者です。

異学年の子ども達がミックスされたグループが学校生活のベースに。

大日向小学校の建学の精神は「誰もが、豊かに、そして幸せに生きることのできる世界をつくる」。だからこそ、校長先生は「学校は一人一人の価値を尊重し合う社会をつくらなくてはいけない」と語ります。

大日向小学校では、開校当時から、1～3年生と4～6年生の3学年で1つのグループ（一般的なクラス／学級のこと）をつくっていました。現在は、新たなチャレンジとして、1・2年生、3・4年生、5・6年生という、2つの学年の子どもたちが混ざり合う30人ほどのグループをつくり、このグループを中心に学校生活を送っています。

「対話」を通して信頼関係の礎をつくる

イエナプラン教育では「8つのミニマム※2」という基本原則があります。

そのうちの 하나가「対話」。対話することは人が共に生きていくための土台となります。そのため、大日向小では、対話に始まり、対話に終わります。

毎日、サークル対話を重ねることで、何か問題が生じれば、子ども達は自分事として、話し合い、解決していきます。対話を繰り返すことで、「ひとはみんな違う」ということを当たり前のこととして考えるようになり、仲間との信頼関係の基礎となっていくます。



「サークル対話」
毎日、朝・夕おこなう対話
大人も子どもの輪に入って
対話をします

4つの活動のサイクルを組み込んだ時間割で、それぞれのリズムで学ぶ

イエナプランスクールである大日向小の授業は、人間の生活にとって欠かせない「対話・遊び・仕事(学習)・催し」という4つの活動がリズムよく組み込んだ構成になっています。

仕事(学習)には「ブロックアワー」とよばれる時間があります。ブロックアワーでは、1週間でやるべき学習課題に対して自分で計画を立て、自分のペースで学習を進めていきます。異学年集団で学習しているので、1年生が2年生から算数の引き算を教わるなど、学年を越えた助け合いや学び合いも自然と起こります。この集団の中では、学習速度の速い・遅いは関係ありません。昨日からの続きの学習をしたいと思います、自分で学習計画を立て直せばよいのです。こうして年間を通して異学年集団での学習が実現できるのは、学びの計画を自ら立て、責任をもって実行できるしくみが整っているからといえます。

	月	火	水	木	金
8:00	8:00 学校オープン/8:10 校スターパス到着				
8:30	サークル(対話)				
8:45	ブロックアワー				
10:15	あそび/おやつ				
10:45	ブロックアワー				
11:50	ランチ				
13:00	あそび	サークル(対話)	あそび	あそび	あそび
13:15	ワールドオリエンテーション	あそび/世界図鑑/世界地図/世界言語/世界文化/世界音楽/世界美術/世界文学/世界歴史/世界地理/世界科学/世界社会/世界経済/世界政治/世界宗教/世界哲学/世界芸術/世界スポーツ/世界音楽/世界美術/世界文学/世界歴史/世界地理/世界科学/世界社会/世界経済/世界政治/世界宗教/世界哲学/世界芸術/世界スポーツ	13:25 スターパス出発	ワールドオリエンテーション	ワールドオリエンテーション
14:45	サークル(対話)		サークル(対話)	サークル(対話)	サークル(対話)
	15:25 スターパス出発		15:25 スターパス出発	15:25 スターパス出発	15:25 スターパス出発

1週間の時間割の例



大日向小学校での学び合いの様子

異学年学級にある、教え、教わり、学びあう姿

異学年学級で対話や学習を日常的に行うことで、自然と、年長者と年少者で、学び合い、助け合う姿が見られます。異学年集団の中での関わり合いは、一人ひとり資質や特性、発達が異なることは当たり前と受け入れ、人間は多様な存在であることへの理解につながっています。また、共に生活してくために他者と協働することや、対話的に進めることの大切さを学んでいます。

(※2)「8つのミニマム(基本原則)」

- ①インクルーシブ(*)な考え方を育てる ②学校のあり方を、人間的で民主的なモノとする
③対話 ④教育の人類学化 ⑤ホノモノ性 ⑥自由 ⑦批判的思考を育てる ⑧創造性

(出典：大日向小学校・大日向中学校 学校案内)

(*)「インクルーシブ(inclusive)」とは、一般に、年齢や性別、国籍、心身の障がいの有無などに関係なく、違いを認め合い、共生することを意味します。

【保護者の声】

子どもが小学2年生の時、家族で東京から移住し、大日向小学校に入学しました。東京とは異なる環境で、のんびりと、そしてのびのびと子育てをしたいと思ったことがきっかけです。学校には豊かな個性をもつ友達がたくさんいます。そして、お互いにその個性を認め合っていると思います。特異な才能をもっている子もいます。お互いの個性・才能が化学反応を起こし、子どもは毎日いきいきと通学しています。

【私立大日向小学校】(<https://www.jenaplanschool.ac.jp/>)

所在地：長野県南佐久郡佐久穂町大日向1110

児童数：193名(2025年度)